



海の波には、どんな形があるの

白くくだける波

船に乗って、海の上で波を見ていると、波がいろいろな形に、変わっていることに気がつきます。波は、風によって起こります。広い海では、いろいろな方向から風がふいてくるので、高い波も低い波もあって、波の形もいろいろに変わります。

風が激しくふくと、波はどんどん大きくなっていきます。波の高さが高くなると、波はくずれて、白くあわだちます。これを沖の白波といい、風の強いときによく起こります。また、沖からおしよせてくる波は、海岸の浅い所にくると、白くくだけます。

風波とうねり

風によって起きたばかりの波を、風波といい、台風などの近くにありますが、風波は、波長（波の山と山、または谷と谷とのきょり）が短く、とがった形をしています。

台風などで起きた波が、はるか遠くまで進んできた波を、うねりといいます。うねりは丸みをおびた波長の長い波で、台風がくる前などに、海岸にやってきます。

三角波やつなみ

いろいろな方向からくる波の山が、おたがいに重なると、大きな三角形をした、山のとがった波ができることがあります。これを三角波といいます。この波は、急に起こるおそろしい波です。

また、地震によりつなみが起こることや、潮の満ち干によって、波が起こることもあります。（監修・国司 真）

